

自然に学ぶ (3)

自然道家
三戸唯裕

自然の法則に従う

年々歳々 花相似たり。
歳々 年々人同じからず
言を寄す 全盛の紅顔の子
憐れむべし

半死の白頭の翁。

— 劉 廷芝 —



冒頭にこの詩をあげましたのは、私達人間も自然の部であり生あるかぎり避けては通れぬのがこの自然の法則なのだ、というお話しを今月はしてみましよう。

「自然の法則」といいますとなにやらとつつきにくい響きがありますが解り易くいえば「自然界の中の原因 結果のきまり。」ということで私達の祖先が自然の中で幾千年来生活してきた中で常識として身につけてきたものです。

例をあげてみますと、「蒔かぬ種は生えぬ。」

これも自然の法則なわけです。「なんだア：：そんなこと常識じゃない。」と皆様はおっしゃるでしょう。でも

「知識として知っている。」というのと、

「実行している。」ということは違います。実行しないで知識だけ持っているのでは宝の物ち腐れです。では私達が日常使う言葉の中で「手入れ」の字が入った言葉を幾つか思い浮べて下さい。

「盆栽の手入れをする。」

「手入れのゆき」とどいた庭園

「道具・器具の手入れをする。」

どの言葉からも心をこめ、磨きあげ、形を整えた対象が浮びあがりませんか。いい盆栽に仕立てようと思ったら手入れ以外に方法は無い。庭園をいつ眺めても美しい眺めにしておくには手入れ以外に方法はない、という自然の法則を長い歴史の間に私達の祖先が見つけたし、つの技術として確立したのです。「顔」にしても「髪」にしても同じです。「顔の手入れをする。」「髪の手入れをする。」と言います。

これはお肌を、髪を綺麗にするには手入れ以外に方法はない、

手入れをすれば誰でも綺麗にできるといふ自然の法則ですね。「手入れ」の反対は「手抜き」です。簡単に、ぞんざいに済ませてしまふということですね。

よく、「私は忙しいので簡単な手入れしか出来ません。」とおっしゃる方がいられます。

「簡単に済ませる」ということは「手入れ」ではなくて「手抜き」ですから「私は忙しいので顔の手抜きしか出来ません。」ということになります。

「でも美しくなりたいのです。」これは自然の法則に反したことです。だから美しくなる訳がありません。当然のことですね。

又、我が子には「身(心)を入れて勉強しなさい。」と叱るお母さんが、自分では「簡単な手入れで美しくなりたい」というのでは矛盾していません。

勉強をしなくては良い点は取れないのが自然の法則です。顔も手を入れなくては美しくならないのが自然の法則です。

「健康になりたい」と希望する人が毎日イライラ、暴飲暴食、夜ふかししていたのでは「健康になりたくない人」のすることをしていくわけですからこれも自然の法則に反しています。

平生、友達とぞんざいな交際方をしている人が他人からは心のもった交際してもらいたいと思望んでもそれは自分勝手な思い込みで他人からは疎外されるものになります。

このように問題の原因・結果のきまり、という自然の法則を無視していながら、それに気付かず不平不満で人生を過したのではなんともむなしい人生を送ることになりはしないでしょうか。

避けては通れぬのが自然の法則ならば、素直に自然の法則に従って生きて行くのも人生です。

人生は片道切符です。

今日の貴女にはもう再び出逢うことは叶いません。それが自然の法則なのです。

どうぞ心をこめ、手を入れて貴女自身を磨きあげて下さい。心からお祈りしています。

